

『豊かで活力ある安全安心な川路』の実現！ 2021年（令和3年）12月1日

今年には36災害より60年目の年にあたり、各種の行事が行われました。川路まちづくり委員会と水防組合は、60年を機に川路の治水に関して見識を深めようと、天竜川上流河川事務所とオンラインで勉強会を開くなどして参りましたが、治水の要になるダムに関して実際に現地確認してみようとの声が高まり、まちづくり委員会と水防組合の共同事業として、美和ダム・小渋ダムの見学会を、去る11月25日に行いました。川路の関係者の見学会と言う事で、三峰川総合開発事務所の菊地副所長、天竜川上流河川事務所の竹内調査課長、美和ダムの上沼所長とそうそうたる皆様の出迎えを受けて、詳細に美和ダム・小渋ダムの概要を治水の面を中心に勉強する事が出来ました。両ダムは洪水対策機能を持っているわけですが、天龍峡地点に於けるダムによる洪水対策目標1,200 m³/sに対し、美和ダム750 m³/s、小渋ダム1,000 m³/sの能力があることが判りました。しかし、この値は、時間的制約が有り、洪水対策用の貯水能力を超えてしまう様な長雨が続けば満水となり、流入量と放出量が同じ、つまり洪水対策機能の働かない状態となってしまいます。その為洪水対策用の貯水能力が重要となりますが、土砂の流入が続くとその能力は低下してしまいます。そこで土砂の採取が重要となる訳ですが、両ダムでは土砂バイパストンネルを近年設置し、稼働を始めております。日本で4つのダムでしか実施されていないこの土砂バイパストンネルを中心に見学をさせていただきました。土砂堆積に対する対策は素晴らしいものがありますが、排出された土砂は下流の天龍峡一带に一部堆積する訳であり、土砂の浚渫が重要となります。菊地副所長のお話ですと、浚渫量は堆積量を上回っており、心配ないとの事ですが、年1回行われる堆積土砂量の確認が重要になります。又、令和元年の台風19号の際の異常洪水時防災操作に関しましては、役員会便り12号でご説明しましたが、その際のお話を聞きしました。1,100 m³/sの流入が想定され、洪水調整能力は満水となり、1,100 m³/sの放流を想定し、一時は緊迫した状況にあったと説明して頂きました。幸い予想が外れ、大事には至りませんでした。異常気象を考慮すると戸草ダムの建設は川路の安全の為に、重要な課題となります。最近の雨の降り方などもあり、国交省内でもダムの認識が変わってきたということで、着工には地域の声の大きさも重要とお話でした。今回の視察で課題が明確になって参りましたので、飯田市と一緒に働きかけを強めて参ります。

今回対応頂いたダム関係者の皆さんが真剣に治水に向けて努力されている姿を拝見し、又川路の治水に関して大きな関心を寄せて頂いていることが感じられ、大変心強く感じた視察でした。「一見は百聞に如かず」今後も役員が交代する度に視察を行い、治水に対する関心を高め、フォローして参ります。



事前質問に対する説明資料



現地視察メンバー



美和ダム内部見学



土砂バイパストンネル出口視察

文化祭展示が長期間行われました



11月22日より28日まで1週間、川路公民館大会議室で川路文化祭の展示が行われました。夜も9時まで見学が出来、「公民館での展示は時間的にも、地理的にも今までより便利になった」との感想を多くの方から頂きました。ところで皆さんは、川路小学校4年生の研究発表をご覧になりましたか？川路の河川の水質状況を分析した研究発表ですが、その内容の素晴らしいことに大変驚きました。読まれていない方の為に、研究の背景とまとめの部分を抜粋してご紹介します。水辺に生きている昆虫を採取し、各河川の綺麗さを確認し、科学的な分析も加えて川路の河川の清浄度を分析しています。川路の河川の源は、三穂境の里山から湧き出る清水ですが、里山の重要性が良く判ります。是非この分析活動を継続して頂き、川路の河川の清浄度のチェックと水質改善活動のPRを実施して頂けたら嬉しく思います。12月より里山管理組合設立に向けて本格検討に入って参りますが、タイミング良い小学4年生の活動報告を読ませて頂き、大人も頑張らなくてはと意を強くした文化祭展示でした。

川路の川は、本当にきれいなのか？

飯田市立 川路小学校 4年生 全員

1 研究を始めたわけ

わたしたちは、2年生と3年生の時、外でいろいろな生き物を見つけてつかまえて教室に持ちこみ、育てたり観察したりして様々な生き物と生活し、自分の目で見たりさわったりして、それぞれの生き物が持っているたくましく生きる力をたくさん見つけてきました。

あらためて思い返してみると、わたしたちが住むこの川路の地区内で見つけた植物や動物の種類は、ものすごい数になります。川路には、こんなにたくさんの生き物が育つことをかくにんして、とてもうれしくなりました。それと同時に、「なぜ川路にはこんなにたくさんの生き物が育つのだろうか」ということが話題になりました。「自然がのこっているからだ」「自然がきれいなんだよ」「山があつて・・・、川があつて・・・」「ギフチョウがいる学友林には、カタクリがたくさん咲いていたよね」「カタクリの群生地ですぐ下に小さい川が流れていた」「あの川はきれいだつたよね」「川路の川はきれいなんだよ」「だから生き物がたくさん育つんだよ」とみんなで話し合いました。わたしたちが川路の自然のもとと考えた川路の川が、本当にきれいなのかを調べてみることにしました。

4 わかったこととまとめ

川路をながれている天竜川の5本の支流は、山の中をながれる上流はもちろんだけど、中流もけっこうきれいな水に住む生き物が多く住んでいることがわかりました。川路には、ねん土のかべから自然にしみ出すきれいな水があつて、そういうゆたかな自然がきれいな川にしているのだと思いました。そのきれいな水が、カタクリなどの多くの動植物を育てているのだと思いました。その他川にながれこんでいる水は、アワやゴミなどをふくむ生活用水のようなきれいな水ではないけど、田んぼから肥料の成分をふくんだ水が川に入っている可能性がありそうだとわかりました。それが川にとってどういう意味があるのかよくわからないけど、そういう水がながれこんだ後下流に行けば行くほど、川の水がさくさくなくなっていくました。これは、あまりきれいな水だと分かった高沢川とねぎや沢川と親音沢川の中流でゴミを見つけたことも関係があると思いました。山の中をながれている川の上流では本当にきれいだつた川の水が、家や田んぼ、果樹園、道路などが多くなる中流や下流では少しづつきれいではなくなるということは、わたしたちの生活に原因があるのだと思いました。わたしたちは今後、さらに住んでいる生き物や川によい具合やマイクロプラスチックについても調べていきたいと思っています。そして、上流だけではなく川路をながれる川全体がきれいになるように、わたしたちができることを考え、じっせんでいきたいと思っています。わたしたちは、ギフチョウやカタクリの群生地など多くの生き物がいる川路の自然を守っていきます。



川路文化祭展示に発表された川路小学校4年生の研究発表。一部背景とまとめの抜粋。



文化祭芸能発表会が盛大に行われました

11月28日川路小学校体育館で川路文化祭の芸能発表会が行われました。322人の皆さんに来て頂き、大変盛り上がった芸能発表会となりました。立って見学された方も大勢おられました。中でも感心したのは川路小学校3年生の人形劇「スーホの白い馬」でした。後ろの方の席から「レベルが高い！大学生の人形劇より素晴らしいなー。」との感想が漏れ聞こえてきました。人形の操り方も上手でしたが、3年生全員での合唱が素晴らしい出来でした。最後に歌いながら順番に挨拶をしてくれましたが、その演出もとても素晴らしかったです。

前述の川路小学校4年生の研究発表と言い、子どもたちの活躍が目立った文化祭になりました。子どもたちも発表ができて私たちも成長を見られる、文化祭を開催する価値がこういうところにあるのかと改めて感じる事が出来ました。朝早くから会場を暖めて、準備をして頂いた公民館の役員の皆さん、大変お疲れ様でした。

追伸：飯田カネト合唱団の劇はレベルが高く格別でした。



川路保育園の子ども達「歌と踊りの発表」



飯田カネト合唱団による「合唱劇」